公民館報 まつもと

発行
2023
11/30

松本市広報R5-37
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 64

松本市重要無形民俗文化財

勇壮で激しい舞

村を荒らす大獅子と
村人の格闘を描いた奈川獅子が
4年ぶりに天宮(てんぐう)大明神で奉納された

(撮影 2023.9.2 奈川地区寄合渡)

松本市立博物館 新装オープン

10月7日（土）に開館し、一般公開されました。地域の貴重な資料の収集・展示のみならず、市民や観光客の交流の拠点としての活用が期待されています。

開館当日は、博物館前のポケットパークにて松本蟻ヶ崎高校書道部のパフォーマンスが行われたり、松本城大手門桝形跡広場において入山辺地区と島立地区の木やりが披露されるなど、賑わいを見せていました。

旧博物館に比べて延床面積は約2・2倍。県内産の木材もふんだんに使用して、長野県らしい造りとなっています。

3階常設展示室には、江戸時代後期の城下町を再現した全国最大級の**「松本城下町ジオラマ」**が展示されています。

現在の街並みと重ねた地図も置いてあります

交流の場として開かれた1階

誰でも立ち寄れるスペースとなっており、交流学習室、講堂、会議室など（一部有料貸出施設）があります。

市民だけでなく、観光客もひと休みして松本の情報を仕入れることができるイラストマップやガイダンス映像があります。

子どもを対象とした「こども体験ひろばアソビバ！」では、自由に遊びながら松本のことを知ることができます。県内博物館では初めてとなる施設です。

いっしょに「まちをつくろう」

地図に建物などのアイテムを並べる「まちをつくろう」、動物と背比べをする「まつもとのもり」、木の玉や手まりを触って転がす「てまりおんせん」。子どもの興味を育てるだけでなく、大人も一緒に遊んでください。会話の中から新しい発見があるかもしれません。

手まりモビールと映像

市民との学びをつなげる

まるごと博物館友の会は、刀剣部会、環境歴史部会、古文書部会などに分かれて有志が活動しています。

一方、市民学芸員は、博物館活動を共に行う人材として、調査・研究・発表する力を養成するものです。年度末には活動の発表も行います。

友の会と市民学芸員の会から希望者を募って、常設展市民ガイドとしても活動しています。赤いストラップが目印です。お声がけください。

わがまち自慢 寿台地区

寿台町会連合会創立50周年～未来へつなぐ絆～

「今後10年、20年と歴史を刻んでも、今以上にこの地に住んで良かったと思える人が増える様念じます」寿台町会連合会創立50周年記念誌の寄稿文に、内山博行町会連合会会長は、このような思いをつづりました。そして迎えた10月21日（土）の正午過ぎ、寿台体育館駐車場には、明善中学校吹奏楽部による華やかな演奏が響き、一年を通し行ってきた地区内記念行事の締めくくりとして、寿台町会連合会創立50周年記念祭がスタートしました。

中学生が大活躍

食事エリア・ゲーム・演舞・福引・子どもひろばなど、多彩な内容です。特に、おばけ屋敷は中学生が主体の進行で、大いに盛り上がりました。

どのブースにも笑顔があふれ、世代を超えての集いを心から楽しみました。

寿台地区は昭和49年の町会連合会の発足当初から住民自治意識が高く、地域の事業が活発に行われてきました。

記念誌の「未来へのメッセージ・寿台への想い」として、中学生の声が寄せられています。「私が大人になっても、地域の子どもたちを応援し続ける寿台にしたいです」子どもたちの心の中には、故郷＝寿台への思いが育っています。

記念祭のフィナーレを飾った、きらびやかに光るLED風船のまばゆい光は、寿台の未来を担う子どもたちの頭上に光り輝いていました。

夢を乗せて天までとどけ

よしかわ

令和5年11月1日 現在

総世帯数	8,169世帯
総人口	17,316人
男	8,653人
女	8,663人

芳川地区 地域づくりセンター ☎58-2034

芳川出張所 ☎58-2034

芳川公民館 ☎58-2034

芳川福祉ひろば ☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、芳川出張所、芳川公民館へのご連絡は同じ番号となります。

芳川みなみ福祉ひろば ☎86-1055

防災の日

芳川防災フェスタ開催

芳川防災フェスタが9月30日に、500人を超える地域住民の参加のもと開催されました。

芳川地区は人口約1万7千人に対して、発災直後の指定避難所総収容人数は、約6千7百人です。

そこで、今回のフェスタでは「在宅避難」をテーマに必要な備えについて理解を深める機会を設けました。

▲消防車乗車体験

◀小学生による放水体験

▲㈱サクセンによる市内断層についての講演

▲日本赤十字による応急処置講習会

地元企業も参加し、災害時の簡易トイレなどの備蓄品の展示、PHEV車からの給電、段ボールベッドの組み立てなどを体験しました。

この日は、蟻ケ崎高校書道部のパフォーマンスや、芳川名物となりつつある「芳川まるっと青空市」も開かれました。

▲蟻高書道部による演舞披露

芳川キャラクター シカセギン

▲中信多文化共生ネットワークによる外国籍住民のための防災ハンドブック紹介 外国語であいさつ体験

▲簡易トイレ実演

市民スポーツ大会 芳川が1回目の総合優勝

10月8日に5年振りに地区対抗形式で開催された市民スポーツ大会で、芳川地区は総合優勝に輝きました。通算成績で芳川と島内が10回の優勝で並んでいましたが、今回で単独トップに立ちました。

ソフトバレーボールが40歳以上と39歳以下で優勝、軟式野球が準優勝、卓球とゲートボール女子が3位に輝きました。

▲大会後、慰労会で参加選手の皆さんと功績を讃え合いました

芳川地区文化祭

「時を超えて集う！そうだ、文化祭へ行こう！」をテーマに4年振りに開催された文化祭。芳川小でのドリームコンサート、公民館を主会場にした作品展示、ステージ発表に多くのみなさんが訪れました。芳川小5年生によるお米、農村女性委員会による赤飯、野菜の販売は大賑わい。笑顔と楽しい会話にあふれていました。

▲ちぐまのコーラス

▲チアダンス
芳川バトンクラブ

▲菊水流 詩舞

▲文化祭展示コーナー

村井町町会文化祭

10月14・15日に開催された村井町の文化祭。今年のテーマは「四ケ堰」。町会文化部が集めた資料パネルが来場者の目を引いていました。15日には、柏澤芳川公民館長の講演も行われ、戊辰戦争、廃藩置県、廃仏毀釈、断髪令の嵐が吹き荒れる中で果敢に四カ堰の実現に奔走した百瀬三七翁の偉業を学びました。

▼やつがたけ民謡研究会の皆さんによる公演

▲柏澤芳川公民館長の講演

健康フェスタ

10月22日には、健康フェスタが開催されました。地域づくり協議会の健康・福祉部会メンバー体協、食生活改善推進協議会、社協、ひまわりの会、健康づくりサポーターが思い思いのブースを出展、脳トレ、スポーツ体験などの場を提供しました。

お馴染み「芳川まるっと青空市」も開催され、秋の味覚の販売もあり、行く秋を彩る楽しい一日となりました。

▲高齢者疑似体験
「身体制限で
高齢者に近づく」

▲ニュースポーツ モルック

▲だし当てクイズ

◀青空市
芳川小6年２組
サツマイモ販売

▲豆つかみ＆体組成測定

農業体験！稲刈りにチャレンジ!!

地域のみなさんに、農業体験をしていただく企画が今年からスタートしました。7月のトウモロコシの収穫に続き、9月23日は稲刈りです。この日は6組の親子が芳川営農のベテランの手ほどきで、鎌を使っての稲刈りに挑戦。刈り取ったお米が参加者に届くとあって、気合を一層コメていました。

歩こう！奈良井宿へ

福祉ひろばの今年のウォーキングは、奈良井宿を訪ねました。最大の難所、鳥居峠を控えた延長1キロに及ぶ日本最長の宿場として栄えました。重要伝統建造物群保存地区にも指定され、国内外から多くの観光客が訪れ街歩きと紅葉を楽しんでいました。

野溝町内ウォーク開催

晴天に恵まれた11月5日、第1回野溝〝マチ〟の魅力を大発見！「町内ウォーク」が開催されました。地図を頼りに町内に設置されたチェックポイントにて、クイズや体験をしながら野溝の歴史文化・環境衛生・防災などを学ぶ事業です。参加者約40名が楽しみながらマチを知る良い機会となりました。

視点

⑭女鳥羽川デザイン企画室
女鳥羽川で遊び尽くす

インスタグラム

荒れた女鳥羽川

女鳥羽川の中流域（東部地区・城東地区あたり）には、増水時のみ水が浸かる高水敷が広く設けられています。昭和34年の七号・伊勢湾台風の被害を受け、河川の拡幅工事が行われたためです。高水敷は町会が草刈りを任されていますが、手が回らず荒れた状態のところもあります。

可能性は無限大！

そのような状況に注目した信大生が、今年の5月頃に女鳥羽川デザイン企画室を立ち上げました。毎週木曜日の7時から8時は草刈り、夏休み中には生き物観察会や旭児童育成クラブと協力して、子どもたちと一緒にいかだを作り、川に浮かべました。

中心メンバーの大久保拓真さん（経法学部2年）は「草刈りは面白みが少ないけど、草刈りをしながら、これから女鳥羽川で何ができるか考えることが楽しい」と話します。若者の柔軟な発想で、女鳥羽川のさまざまな遊び方を考え、まずは自分たちが楽しみながら活動しています。

一緒に遊びませんか？

学生が地域の課題だった草刈りを解決してくれた、女鳥羽川で何かやっている、で終わらせたくありません。地域を巻き込み、いろいろな人と活動が女鳥羽川を中心につながっていくことが目標です。

たき火・流しそうめん・マウンテンバイク、遊び方を考えたらきりがありません。童心に帰り、地域の皆さんも一緒に遊びませんか。オレンジ色のビブスが目印です。

活動の様子はこちらから♡

写真でつづる まつもと今昔㊸

～ 芳川地区・四ヶ堰の円筒分水 ～

（撮影：昭和８（1933）年秋）

明治元年奈良井川の洪水で、江戸時代からあった用水路が流失し、平田村の庄屋「百瀬三七翁」の立案で、明治5年に完成した四ヶ堰。昭和9年には木製の大土井から、コンクリート製の円筒分水に生まれ変わった。

（撮影：2023.6.12）

現在の円筒分水は2代目で、昭和60（1985）年に全面改築されて近代的な施設になった。水を均等に配分するこのような設備は、松本ではここだけである。

おこひる

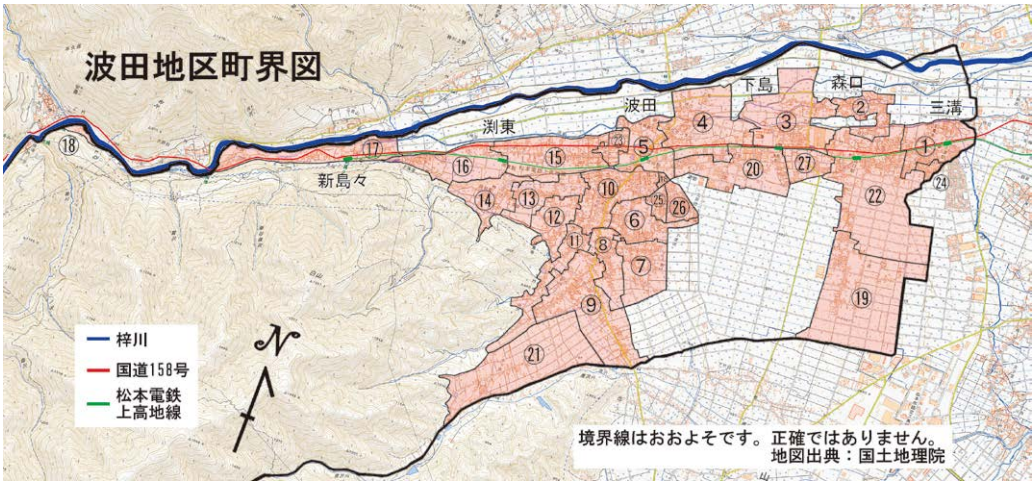
「安曇野」という呼び名が広まったのは、臼井吉見の小説『安曇野』が出てからといわれている▼臼井は旧制松本中学2年のとき同じ下宿の5年生に「中央公論」を借りて読み、小説家になろうと思った。しかし、その夢がかなうのは晩年で、編集者、文芸評論家としてまず世に出た。古田晁が起こした筑摩書房を活動の場所として▼古田は臼井と同年で同じ下宿にいた。二人は松本高等学校に進学、そこでも下宿を同じくした。肝胆相照らす仲だったのだ▼臼井のほか唐木順三、中村光夫をはじめ中野重治、柳田國男、太宰治など、筑摩書房に集った人びとは多士済済、「筑摩文化」といわれるその思想は戦後の日本をリードし、大きな影響力をもったという▼臼井、古田の出身地である安曇野市堀金、塩尻市北小野にはそれぞれの顕彰施設がある。二人が出会い、終生つづく友情を育んだ松本市はどうであろう。中学時代の下宿は安原町、高校時代は県町、その建物は当然のごとく今はない。せめて跡地に案内板などあるといいのだが。

再発見!!

まつもと地名がたり ②

豊富な水と地形が歴史を作る「波田」波田地区

波田地区は上高地・乗鞍高原の玄関口として、松本市西部に位置します。人口約15000人、スイカの名産地として知られています。



波田の由来

奈良時代（8世紀初め）この地域に目をつけた朝廷が、大野牧という牧草地を造りました。豊富な水と河岸段丘、扇状地がもたらす豊かな土地が魅力だったからでしょう。

この牧草地を治めていた秦氏がこの地域の実権を握り、開拓していきます。そしてこの地域を秦郷としたのが名前の由来と考えられています。秦氏は灌漑整備に大きく関わり、この地域の発展につながりました。

その後、畑郷、波多、波田と名称は時代と共に変化して今に至ります。

波田地区の歴史

今の波田地区になったのは明治7（1874）年、上波多村・下波多村・三溝村が合併し、波多村ができたことによります。

村制施行後の波多村ではたくさんの字名があったことから、数字で町会を区切り、第1区から第15区までの数字の町会制を敷きました。このようないきさつによる数字の町会名は、県内でも大変珍しいそうです。

現在では人口の増加とともに27町会まで増えました。

三溝の由来

現在の新村地区に隣接していたのが三溝村です。この村には秦氏の管轄地を避けて、和田・神林・新村の3村へ向かって通る堰があったことから「三庄溝」三溝が名前の由来と考えられています。

県宝銅造半跏像（奈良時代）
若澤寺ゆかりの弥勒菩薩像です

松本平の野鳥たち

ウソ　（2021年12月松本市入山辺三城　写真提供：信州野鳥の会）

スズメより一回り大きい小鳥。オスはほっぺにかなり目立つ赤色。人間の口笛によく似た声で「フィーフィー」と鳴く。桜のつぼみが大好きなことから桜の名所ではトラブルも。

まつもと散歩

穏やかに晴れた
ひだまりの時間
まぶしい笑顔が揺れて…

（撮影：2023.10.22 女鳥羽川）